

特別賞

# あまわり浪漫の会

県内外に根強いファンを持つ現代版組踊シリーズを支える



うるま市で活動する【あまわり浪漫の会】は、子ども達の居場所づくりと青少年健全育成、地域の歴史文化の継承等を目的とした父母の枠を超えた支援団体であり、学校以外の学びの場として日々の稽古や本公演ま

で様々なかたちで子ども達による現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動を支援している。

## 地域の子どもがスターになる瞬間

舞台に出演するのは、うるま市内の中学校・高校に通う子ども達。勝連城 最後の城主・阿麻和利を題材にした舞台に取り組むことで、子ども達が地域の歴史を知るきっかけとなっている。歴史を知ることによって郷土愛が生まれ、地元意識の向上が自己肯定にもつながり、子ども達の健全な成長をサポートしている。週に2～3回の稽古と、成果を披露する定期舞台公演(年12回程度)に加え、地域の行事や催事へも積極的に出演している。



舞台や稽古場を「究極の遊び場」として、主役である子ども達が楽しみながら学びつつ、周囲の大人はあくまでそのサポートに徹するという体制をとっている。日々の

カテゴリー	子どもの健全育成／地域の魅力発見／文化・伝統継承／人材育成		
住所	うるま市勝連平安名1446-1		
電話番号	098-978-0608	設立	2001年7月18日
人数	あまわり浪漫の会106名／肝高の阿麻和利132名（肝高の阿麻和利の子ども達延べ約500名）		
主な活動	子ども達の居場所づくりと青少年健全育成		
利用施策	うるま市シティプロモーション事業		
受賞歴	日本ユネスコ協会連盟、第一回プロジェクト未来遺産登録、サントリー地域文化賞 ティファニー財団賞 伝統文化大賞、第41回琉球新報活動賞 他		

活動の中には「チームビルディング」という体験メニューがあり、参加者が各パートの演舞の指導を受け、最後にその成果を披露する。「全員で1つの事を成し遂げる」といった体験メニューは、企業における新人教育等でも活

用されており、「人材育成」という点も重視した取り組みとなっている。



## 多方面にわたる波及効果

現代版組踊「肝高の阿麻和利」は、2000年の初演以来、観客数延べ19万人を動員。劇中では、「平敷屋エイサー」や「平安名のテンテンブイブイ」、「浜の京太郎（ちよんだらー）」といった地域特有の民俗芸能も取り入れ、地域資源にも光をあてることで「地域おこし」につながっている。舞台活動で得た感動体験と、郷土の誇りを持った子ども達が、その感性を活かして「地域に根差して人に尽くす」シゴトを生み出すという、地域づく

りの新たなモデルケースを目指している。

また、活動拠点であるうるま市は、地域活性化の基軸としてこの取り組みを重視している。活動開始30周年にあたる2030年を目標に、全国でも貴重な成功事例を目指して最大限のバックアップを約束しており、官民協働のパートナーとして現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動がまちづくりへの参画を担っていくことを大いに期待している。

## 「地域に根差して人に尽くす」シゴトを生み出す

現代版組踊「肝高の阿麻和利」の子ども達は【あまわり浪漫の会】の支援を受けながら活動を続け、その取り組みを更に広げるべく「教育で地域を、文化で産業を興す」を理念に、2005年4月に一般社団法人TAOFactoryが設立される。現在では、卒業生が中心に運営をしており、TAO Factoryとして「肝高の阿麻和利」の運営に関わることで、次代を担う子ども達の後進育成や、新たな演劇や企画、感動体験メニューの創出等一過性ではない継続的な活動の組織化が図られている。

また、TAO Factory は2022年4月からあまわりパーク歴史文化施設の維持管理運営業務を受託する等、企業理念に合致した事業活動を展開しており、現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動を通じた雇用創出にも大きく寄与している。初演から20年以上が経過し、毎年増える卒業生のネクストステージ（起業や就労）づくりと共に、世代交代や時流に対応できる運営組織の基盤の強化が次なる大きな目標と皆が心している。